

平成22年3月 策定

千葉県教育振興基本計画

「ふれる」、「かかわる」、 そして「つながる」

10年後の子どもたち、家庭・学校・地域、県民の姿を展望し、子どもたちが、社会的自立や職業的自立に必要な力を身に付けていくためには、豊かな自然や様々な知識・技能に触れ、かかわり、そして様々な人とつながっていくことが必要です。

家庭や学校が子どもたちの、知・徳・体の育成に大きな責任を有することは言うまでもありませんが、「すべての大人が子どもたちの育成にかかわる」という自覚が大切です。家庭、学校、地域がかかわり、つながることにより、さらに大きな教育力にしていかなければなりません。



計画推進のための方策

- ライフステージに応じて、家庭・学校・地域それぞれの役割を整理し、教育にかかわる多くの県民の理解と協力を得ながら実効性を高めます。
- 「学校を核とした県内1000か所ミニ集会」などとの連携により、教育を核とした新しい地域コミュニティの構築を促進し、人と人との交流の輪の中で子どもたちが学んでいける環境をつくれます。
- 「かかわり」や「つながり」を重視した横断的、総合的な取組を推進するとともに、市町村教育委員会との一層の連携を図ります。
- P D C A サイクルに基づき、目標に対する重点取組の実施状況を点検・評価し、改善を図りながら事業を展開します。
- 多様な広報媒体を活用して、計画の周知を図り、広く県民の理解と協力を求めます。
- 予算の効率的・効果的な活用に配慮し、必要な予算確保に努めます。